

シダ編



コシダ

この6枚の葉っぱが1枚の葉です

撮影場所：清里「桜の森」

シダの概要

シダ植物は維管束植物で種子を作らず胞子によって増える植物で、シダ植物門として一つの分類群にまとめられています。



ホシダを例に羽片の名称を示します

トクサ（砥草）

観賞用として栽培されるトクサ科の常緑性シダ。シダらしくないシダの一つです。孢子嚢は枝先に頂生しています。茎が硬く金属類を磨くので砥草の名があります。半日陰の庭に植えるのがよいようです。似た種にミズトクサ（円内写真左上）、ヒメトクサ（円内写真左下）があります。



スギナ

道端などに生えるトクサ科の夏緑性シダ。2形あって栄養茎がスギナ、孢子茎がツクシです。通常両者をツクシと呼んでいます。スギナは緑色で高さ40センチほどになり、小枝を節部から輪生し、ほうき状です。ツクシは茎頂に1個の孢子嚢穂をつけます。ツクシは食べられます。スギナは薬草で問荆と称し腎臓病などに用います。



イワヒバ

暖地の岩壁や岩上に着生し、観賞用としても栽培されるクラマゴケ科の常緑性シダ。カタヒバに似ていますが、葉（葉状枝）は樹冠状に開き、濃緑色です。イワマツとも呼ばれ多くの園芸品種があります。耐乾性はよいのですが、乾燥すると葉を内側に巻き込みます。



ノキシノブ

岩の上や樹幹に普通に見られるウラボシ科の常緑性シダ。単葉で、葉柄がはっきりしません。葉は厚く革質で全縁です。胞子嚢は円形で葉の中間につきます。ミヤマノキシノブには葉柄があります。



ヒトツバ（一つ葉）

乾いた樹幹や岩上などに生えるウラボシ科の常緑性シダ。根茎は硬い針金状。葉は厚く、裏に茶色の星状毛を密生しています。葉は2形あり、胞子葉は葉の幅が少し狭く胞子嚢は裏面一面につきます。



マメツタ（豆蔕）

岩や樹幹に着生するウラボシ科の常緑性シダ。湿度の高い場所を好みますが、乾燥にも耐えます。胞子葉と栄養葉の2形があり、栄養葉は円形で樹幹などに張りついて広がり、胞子葉は狭いへら形で立ち上がり内側に茶褐色の胞子嚢があります。



ホシダ

山野や道端などに生えるヒメシダ科の常緑性シダ。1回羽状複葉で、葉脈は単条で裏面に隆起して隣の葉脈と下の1～2本が結合しています。小羽片の先端は尖り、最下羽片は中央の羽片と同長か少し短い。葉面の毛は少なく一見無毛状です。胞子は円腎形で側脈上に付きます。



ヤブソテツ

九州では普通に見られるオシダ科の常緑多年性シダ。高さ50～100㎝になります。常緑性で羽片先端に鋸歯。葉縁は全縁または細鋸歯。羽片は15対前後、厚い革質で少し光沢があります。包膜は円形で灰白色です。



イワガネソウ

林内に生えるホウライシダ科の常緑性シダ。葉脈は網目を作り、葉脈の先端は鋸歯の中に入りません。葉は1回羽状複葉で、ソーラスは葉脈に沿ってつきます。



カニクサ

石垣や草地に生えるフサシダ科の夏緑性シダ。シダらしくないシダで、どこまでが1枚の葉っぱか見分けが難しいです。また中軸は茶褐色で硬く、円形でなくて平らな面があり、こちらが葉軸の表面となります。ソーラスは葉縁に出来ます。



ウラジロ（裏白）

暖地の山野に生えるウラジロ科の常緑性シダ。斜面の若干日の当たる所に多いようです。脈は二又脈で（ルーペで見ると綺麗です）、葉の裏が白いです。お正月の餅飾りに使いますが、裏の白い面を上向きにして使います（これが正式な飾り方です）。



コシダ

日当たりの良く乾燥した場所に群生するウラジロ科の常緑性シダ。高さ50センチ～1.5メートル。葉は二又ですが、一つの枝から3組6枚の葉を出します。従って6枚の羽片が1枚の葉となります。葉の裏面が白く、裂片の先端は少し窪んでいます。



ワラビ

日当たりの良い山野に生えるコバノイシカグマ科の夏緑性シダ。葉は3回羽状複葉で最下羽片が大きく、裂片の縁は僅かに内側に巻いています。脈は二又。胞子嚢群は葉縁につきます。地面から伸びた葉の開く前の新芽を採り湯がいて和え物や煮付けにして食べます。根茎で広がります。



タマシダ

暖地海岸沿いの石垣や道端の斜面などに生えるタマシダ科の常緑性シダ。葉は1回羽状複葉で側羽片基部の耳状に突出します。根茎に貯水器官のタマがあるのでこの名があり、乾燥にも強く群落を作ります。包膜は円腎形をしています。花材としても利用されます。



ホラシノブ

道端などに生えるホングウシダ科の常緑性シダ。葉は不規則な羽状複葉で包膜はポケット状です（円内の写真）。葉は黄緑色ですが、冬になると淡紅色となることがあります。小葉の一つ一つが銀杏の葉のようです。



イノモトソウ

石垣や民家の日陰の所に生えるイノモトソウ科のシダ。1回羽状複葉、中軸に翼があり、葉脈は葉縁に届きません。葉質は薄いです。葉には2形あり、胞子葉は葉柄が長く、胞子嚢は葉縁に出来ます。栄養葉は中軸に翼があります。



ベニシダ（紅羊歯）

林内や道脇に生えるオシダ科の常緑性シダ。2回羽状複葉。新芽は普通紫紅色です。包膜は円形で紅色です。



タチシノブ

山野林内に生えるホウライシダ科の常緑性シダ。冬は淡紅色になることが多いです。葉柄に縦溝があります。ホラシノブに比べて葉が細いです。両者を並べてみるとよく分かります。

